穂学

令和６年度　広州日本人学校
学校だより　No.6
令和６年８月20日
発行責任者　校長　大久　耕

勇往邁進

２学期が始まりました。12月24日まで85日間の長丁場となります。１学期末に多くの子供たちを送り出しましたが，新たに編入学児童生徒16名が加わり，388名となります。

始業式では，代表時の児童生徒３名がそれぞれ１学期の反省を踏まえて，「力を合わせること」，「支え合うこと」，「集団として成長できるように力を尽くすこと」など，２学期の目標や抱負を発表しました。

校長からは，パリオリンピックで活躍した北口榛花選手を例に，「勇往邁進（ゆうおうまいしん）」をテーマにしっかりと目標を見据えて，勇気を持って挑戦してほしいこと，またお互いに励まし合い，挑戦する人たちを応援できる広州日本人学校にしていこうと話をしました。

教職員研修（８月15日）

職員研修の一環として「現地理解研修」を実施しました。研修には，事務職員も含めすべての職員が参加しました。

今年度は，「広州の歴史や文化の理解」をテーマに，かつて各国の領事館や企業・事業所が置かれ，諸外国との窓口となった沙面島，広州文化の発展の地とも言われる荔枝湾景区，日本人学校（当時は広州日本語補習校）の発祥地であり広州の金融の中心でもあった淘金地区などを歩いて回り，街の発展や外国とのつながり等について理解を深めました。

各学年の学習において，体験的な学習を取り入れるなど，分かりやすく，おもしろい授業づくりができるよう，今回の研修を生かしていきたいと思います。

～　学校長日記　～

夏季休業中にパリオリンピックが開催されました。多くの競技で，各国の選手がすばらしい姿を見せてくれました。ぜひ今度は，来週からのパラリンピックにも注目してほしいと思っています。

パラリンピックの精神を最も端的に表現していると言われる「失ったものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」（ルードウィッヒ・グットマン博士）という言葉は有名ですが，きっと多くのパラリンピアンがこのことを体現してくれると期待しています。

「百聞は一見に如かず」。障がいのある児童生徒の教育にも携わって来た私は，パラリンピアンの姿が，子供たちにも多くものをもたらしてくれると信じています。